

# 中高年女性の5〜10人に1人が

# 発病する橋本病！

歳をとったからではありません

## 代表的な甲状腺の病気



### 橋本病を患う 橋田寿賀子さんと研ナオさん

「疲れやすくなった」「気分が落ちこむ」「肌がかさつく」「物忘れが増えた」「寒い」「あまり食べないのに、なぜか体重が増えた」

中高年の女性で、なんとなくこんな悩みを抱えるようになったら、一度は慢性甲状腺炎＝橋本病を疑ってみるとよいでしょう。橋本病は中高年女性の5〜10人に1人が発病するという高頻度の病気です。かつ、もつとも見過ごされやすい代表的な甲状腺の病気だからです。

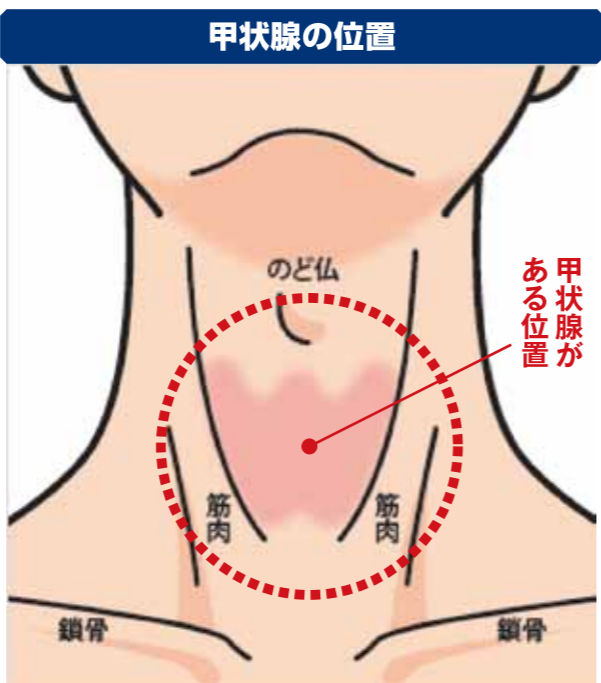
若い女性も例外ではありません。そして成人男性も40人に1人が発病と報告されています。

5月25日は「世界甲状腺デー」。甲状腺の健康と、甲状腺疾患の治療の進歩を啓発するための日として制定されました。

甲状腺の病気はあまりよく知られていませんが、国際的に甲状腺の患者さんは少なくありません。日本でも患者数は500万〜700万人を数えます。そのうち治療が必要な患者さんは約240万人と推定されているものの、実際に治療を受けているのはわずか約45万人。見過ごされている患者さんが圧倒的に多いのが、甲状腺の病気なのです。

なかでもつとも多いのが橋本病です。人気テレビドラマ「渡る世間は鬼ばかり」の脚本家・橋田寿賀子さんや、歌手でタレントの研ナオコ

## 見過ごされやすい



●「世界甲状腺デー」のシンボルマーク

さん、お笑いコンビ・アジアンの馬場園梓さんも橋本病を患っています。この際、橋本病とその診断と治療について、しっかりとした知識を身につけましょう。

### 進行すると甲状腺ホルモンの合成・分泌が低下！

橋本病は甲状腺ホルモンを分泌す

る内分泌器官＝甲状腺に慢性的な炎症が生じ、その炎症によって甲状腺が腫れたり、甲状腺をかたちづくる濾胞細胞が壊れたりする病気です。橋本病が進行すると濾胞細胞の破壊が進み、甲状腺ホルモンを生成・分泌する甲状腺の働きも低下し、甲状腺機能低下症を引き起こします。では、甲状腺とは体のどこにある

のでしょうか。甲状腺は首の前面、喉に存在します。のどぼとけの1〜2 cm下に、蝶（バタフライ）が羽を広げたような形の器官です。健康な甲状腺は縦3〜5 cm、横4〜5 cm、厚さ1〜1.5 cmで、重さは15〜18 gです。気管を抱くようにその前面に位置しています。橋本病などで甲状腺が腫れたりして大きくなると、指で触れることもできます。しかし、通常は筋肉に覆われているので、皮膚の上から指で触れても、どこにあるのかわかりません。

### 心身を元気にする 甲状腺ホルモン

甲状腺は小さな臓器ですが、甲状腺ホルモンを分泌する人体最大の内分泌腺＝内分泌器官です。

甲状腺ホルモンは血液によって体のすみずみまで運ばれ、実に多彩な働きをします。食事から摂った栄養やエネルギーを全身の細胞に届け、必要なものに変える仕組みを代謝といっています。甲状腺ホルモンは全身の臓器や器官、細胞などの代謝を活発

### 甲状腺はヨウ素を原料に 甲状腺ホルモンをつくる 内分泌腺

にする働きを担っているのです。いわば体と心を元気にコントロールする、というのが甲状腺ホルモンの働きなのです。甲状腺ホルモンはトリヨードサイロニン(T3)とサイロキシニン(T4)の2種類があります。トリヨードサイロニンはサイロキシニンより強力な働きをするものの、分泌量が少ない一方、サイロキシニンはトリヨードサイロニンより効き目が長い、というのが特徴です。

甲状腺はそれをかたちづくる濾胞細胞の周囲の血管からヨウ素(ヨード)を取り込み、ヨウ素を原料にしてトリヨードサイロニンとサイロキシニンの2種類の甲状腺ホルモンをつくり出します。そしてつくられた甲状腺ホルモンを甲状腺のなかに蓄えます。さらに血液中の甲状腺ホルモンの濃度を一定範囲に保つため、甲状腺から適宜、甲状腺ホルモンを血液中に送り出します。

甲状腺ホルモンの血中濃度が一定範囲に保たれているのは、脳の中心部に存在する内分泌器官⇨下垂体かすいたいの働きに負っています。血液中の甲状腺ホルモンの濃度が低下すると、下垂体から甲状腺刺激ホルモン（TSH）が分泌されます。そしてこのTSHが甲状腺の濾胞細胞の細胞膜にあるTSH受容体と結合すると、甲状腺は血液中からヨウ素を取り込み、甲状腺ホルモンを合成・貯蔵し、血液中に放出するのです。

### 甲状腺ホルモンの

### 合成・分泌が低下する病気

橋本病は甲状腺に慢性的な炎症が生じる病気と先述しましたが、橋本



橋本 策（はしもと・はかる）医師

など多種多様な症状があらわれます。問題は、そうした症状があらわれるのは橋本病の患者さんの2割くらいにとどまることです。しかも他の病気でも同じような症状があらわれるので、ほかの病気と間違われてしばしば見逃されることが少なくありません。あるいは、「年をとったからではないか：：」と誤解し、患者さん自らが見過ごしてしまうことも多々見受けられます。

たとえば、「気分が落ちこんで疲れやすい」という症状からうつ病と診断され、そのための治療を受けていたりすることも：：。「ひょっとしたら橋本病ではないか」

こう思ったら、迷わず甲状腺の専門医に受診したほうがよいでしょう。

### 血液検査

### 自己抗体の測定で判明

橋本病か否かは触診と血液検査でほとんどが判明します。

血液検査では、血液中の甲状腺ホルモン（フリーヨードサイロニン（FT3）とフリーサイロキシニン（FT4））をはじめ、橋本病に特徴的な

病の初期は甲状腺が腫れるだけにとどまります。しかし、慢性的炎症が続くと徐々に濾胞細胞が壊れ、甲状腺の働き⇨機能が低下します。すなわち甲状腺ホルモンをつくり、蓄え送り出す働きが低下し、甲状腺機能低下症を招いてしまうのです。

ちなみに橋本病という病名は、1912年（大正元年）、九州大学医学部第一外科の橋本策医師（三重県伊賀市出身）が世界で初めて報告したことから、その栄誉を讃えてつけられたものです。

一方、甲状腺の働きが高まりすぎて、過剰に甲状腺ホルモンが分泌される病気を甲状腺機能亢進症こうしんせいといいます。その代表的な疾患がバセドウ病です。

### 橋本病は自己免疫疾患

### 自己抗体が甲状腺組織を攻撃

なぜ慢性甲状腺炎⇨橋本病が生じるのか。その原因は免疫系の異常から自己抗体じこたいが甲状腺を攻撃し、炎症を引き起こすからです。

本来、免疫は自己と非自己を識別し、細菌やウイルスなどの外敵（抗

自己抗体、抗サイログロブリン抗体や抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体の有無やその値がわかります。甲状腺が腫れていて、抗サイログロブリン抗体か抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体が陽性と判断されれば橋本病と診断できます。

ほかに超音波検査やCT検査、MRI検査、アイソトープ検査などの画像検査も行います。橋本病に加え、甲状腺にしこり（腫瘍）が生じて結節性せつせいの疾患を合併していることもあり、それを見つげるために画像検査を行います。

不可欠なのは、しこりがあるときの細胞診です。しこりに針を刺し、病変部の細胞を吸引して採取します。そして採取した細胞を病理医が顕微鏡で観察し、良性腫瘍か悪性腫瘍か、悪性腫瘍ならばどのような種類のものなのかを調べます。

細胞診が重要なのは橋本病の患者さんのなかに、稀まれに悪性リンパ腫を合併している患者さんがいるからです。白血球の一種であるリンパ球ががん化したのが悪性リンパ腫で、見逃すと生命にかかわります。

（原）を非自己として排除するための仕組みで、そのための攻撃手段が抗体です。しかし、免疫の異常から自らの体（臓器や器官など）を攻撃する抗体をつくってしまうことがあります。これを自己抗体といいます。橋本病は自らの甲状腺組織に対する自己抗体ができ、甲状腺に慢性炎症を引き起こすと考えられています。

橋本病に特徴的な自己抗体として、抗サイログロブリン抗体（TgAb）と抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（TPOAb）があります。

サイログロブリンは甲状腺をかたむくめる濾胞細胞のなかにある物質で、甲状腺ホルモンを合成する場となっています。このサイログロブリンを攻撃して炎症を起こすのが、抗サイログロブリン抗体です。

また、ペルオキシダーゼは濾胞細胞のなかにある酵素こうその一種です。ヨウ素を材料に甲状腺ホルモンをつくる際の仲立ちを行うもので、これを攻撃して炎症を起こすのが抗ペルオキシダーゼ抗体です。

免疫の異常から、これらの自己抗体がつけられると橋本病を発症させ

### 甲状腺ホルモン薬の服用が唯一の治療法

橋本病は、いまのところ慢性的な炎症を抑えたり、炎症で壊された甲状腺の組織を修復したりする治療法はありません。不足した甲状腺ホルモンを薬で補い、症状の軽減⇨解消をはかるのが唯一の治療法です。

橋本病の治療薬は甲状腺ホルモン薬です。甲状腺ホルモンと同じ成分のものを人工的に合成したものですから、長期にわたって安全に服用することができま

甲状腺ホルモンのうち、サイロキシニン（T4）を人工合成してつくられた薬が「チラージンS」です。「チラージンS」は長いこと体内で働き、必要に応じて肝臓でもう一つの甲状腺ホルモン、トリヨードサイロニン（T3）に変わります。



るので、橋本病は自己免疫疾患の一種と考えられています。

### 特有の症状が

### 見当たらないのが特徴

橋本病の大きな特徴は、橋本病特有の症状がきわめて少ないということです。

まず発病後、初期のうちには炎症から甲状腺が腫れますが、それだけのことかほとんどです。腫れもあまり大きくなることはなく、大きくなったとしてもしばらくすると元のサイズに戻ったりすることもあります。甲状腺の腫れだけで、患者さんが橋本病の発症に気づくのは難しいといえます。炎症が続いて橋本病が進行すると甲状腺の濾胞細胞が次第に壊れ、甲状腺ホルモンの生成・分泌も低下していきます。その結果、心身にさまざまな不調があらわれます。

「元気がなくなる」というのが顕著な傾向です。そして頭書に記した症状をはじめ、「むくみ」や「筋力低下」「肩こり」「眠い」「動悸」「便秘」「声のかすれ」「月経異常」「コレステロール値の上昇」「脈が遅くなる」

より強力で効き目が短いT3を人工合成してつくられた薬が、「チロニン」です。通常は効き目が長い「チラージンS」を服用します。

甲状腺ホルモン薬は少量から服用をはじめ、少しずつ増やしながら、主治医が適切な量を決めていきます。適量の薬ならば副作用が出ることはありません。

甲状腺ホルモン薬の服用によって甲状腺ホルモンの不足が解消されれば、症状は軽くなり、症状が完全に解消することもあります。ただし、甲状腺ホルモン薬の服用を勝手にやめると、再び甲状腺ホルモンが不足し症状がぶり返します。甲状腺の機能が回復したわけではないので、基本的に甲状腺ホルモン薬の服用を続けなければなりません。

橋本病はけっして珍しい病気ではありません。怖い病気でもありません。適切に対応していけば健康な人と同じように健やかな日々を過ごせます。「橋本病ではないか：：」と気づいたら、ぜひ甲状腺の専門医に受診し、適切な治療を受けるようにしてください。